

血液腫瘍内科に通院中の患者さん(又は通院歴のある方)へ（臨床研究に関する情報）

本院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、診療後の残余検体と診療情報等を使って行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。なお、この臨床研究は関西医科大学附属病院研究倫理審査委員会の審査を受け、研究方法の科学性、倫理性や患者さんの人権が守られていることが確認され、研究機関の長の許可を受けています。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

《研究課題名》Pola-R-CHP 療法後に再発したびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫における CD79b 発現変化の検討

《研究機関名・研究責任者》関西医科大学附属病院 血液腫瘍内科 主任教授 伊藤 量基

《研究の目的》びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に対して、Pola-R-CHP 療法は標準治療の一つとして用いられています。Pola-R-CHP 療法に含まれるポラツズマブ ベドチンは、リンパ腫細胞の表面にある CD79b という分子を標的とする薬剤です。しかし、Pola-R-CHP 療法後に再発した場合に、CD79b の発現がどのように変化しているかについては、十分に分かっていません。本研究では、Pola-R-CHP 療法後に再発したびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の患者さんを対象として、診断時および再発時に保存されている組織検体を用いて CD79b の発現を調べます。これにより、再発時の腫瘍の性質の変化を明らかにし、将来の治療選択や再発の仕組みの解明に役立つ情報を得ることを目的としています。

《研究期間》研究機関の長の許可日～2028年3月31日

《研究の方法》

●対象となる患者さん

びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の患者さんで、2025年1月1日から2026年5月31日までの間に、関西医科大学附属病院において Pola-R-CHP 療法を受け、その後に再発または再燃を認めた方を対象とします。

●研究に用いる試料・情報の種類

情報：診断名、年齢、性別、全身状態、病期、国際予後指標、治療内容、治療効果、再発時期、再発後の治療内容、病理診断結果、免疫組織化学染色結果など

試料：診療のために採取され、病理部に保存されている診断時および再発時の凍結検体ならびにホルマリン固定パラフィン包埋組織検体

《試料・情報の利用又は提供を開始する予定日》2026年8月1日

《外部への試料・情報の提供》

本研究では、試料・情報を外部の研究機関へ提供する予定はありません。また、外国にある機関へ試料・情報を提供する予定也没有ありません。

《この研究に関する情報の提供について》

この研究に関して、研究計画書や研究に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

《この研究での検体・診療情報等の取扱い》

お預かりした検体や診療情報等は、患者さんの氏名や住所などが特定できないように安全管理措置を講じたくえで取扱っています。

《本研究の資金源・利益相反について》

この研究は外部の企業等からの資金の提供は受けておらず、研究者が企業等から独立して計画して実施しているものです。したがって、研究結果および解析等に影響を及ぼすことは無く、患者さんの不利益につながることはありません。また、この研究の研究責任者および研究者は「関西医科大学利益相反マネジメントに関する規程」に従って、利益相反マネジメント委員会に必要事項を申請し、その審査と承認を得ています。

*上記の研究に利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

《問い合わせ先》

関西医科大学附属病院 血液腫瘍内科 担当医師 主任教授 伊藤 量基
〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目3番1号
電話 072-804-0101（代表） FAX 072-804-0131